

第2回土木と学校教育フォーラム

模擬授業ワークショップ・テーマ2-1

地域に流れる河川を防災の観点
から教材化するために

-ハザードマップの活用を中心に-

新宿区立戸塚第二小学校 齋藤幸之介

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

小学校学習指導要領第2章第2節社会
第3学年及び第4学年

2 内容(4)

「地域社会における**災害**及び事故の防止について、(中略)人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々工夫や努力について考えるようにする」



改善の具体的事項

「我が国の国土や地域に関する内容について、環境保全、**防災**及び伝統や文化、景観産物などの地域資源の保護・活用などの観点を重視して再構成する。」

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

小学校学習指導要領第2章第2節社会
第3学年及び第4学年

2 内容(4)

「地域社会における**災害**及び事故の防止について、(中略)人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々工夫や努力について考えるようにする」

災害—火災、風水害、地震、その他がけ崩れや
土石流、火山の噴火、津波など（選択）

1 平成20年版学習指導要領における「河川」の教材化について

2 内容(4)

「地域社会における**災害**及び事故の防止について、(中略)人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々工夫や努力について考えるようにする」

- ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること
- イ 関係諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

風水害

○国や県(都、道、府)の働きや近隣の市(区、町、市)の協力

がけ崩れの防止や河川改修、水防倉庫の設置、避難場所の確保など、風水害を未然に防ぐ努力をしていること

○地域住民の協力

避難訓練の実施、地域の水防団による危険箇所の見回りや点検など

○関係諸機関の相互の連携

災害発生時において、関係の諸機関が相互に連絡を取り合い、地域の人々を安全に避難させるために活動していること

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

風水害→「河川」の教材化の可能性



「神田川」の教材化の可能性

- ・ 自然（動植物）
- ・ 産業
- 自然災害の発生
- 自然災害に対する対策

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

つまり

「神田川」の教材化は可能である・
地域教材として積極的に教材化すべ
きである

さらに

「土木」の観点から「神田川」の教材
化にどのような意味があるのか

1 平成20年版学習指導要領における「河川」の教材化について

「土木」の観点からの「神田川」の教材化

・「土木」はわれわれが生活するときに不可欠な、例えば「道」「橋」「川」などを

いかに社会や自然にやさしくつくるかを考え、人々が快適に生活できるよう努力する社会的営み

(「ドボクって？」 藤井聡先生

(「土木と学校教育フォーラム」より))

1 平成20年版学習指導要領における 「河川」の教材化について

「土木」の観点からの「神田川」の教材化

社会や自然にやさしくつくるかを考え、
人々が快適に生活できるように努力する社会的営み



「(前略)社会的な見方や考え方を養い、身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養う」
(中央教育審議会答申・改善の基本方針より)

つまり「**公民的資質の基礎を養う**」ことが達成できる内容として位置付けられる

2 「地域の自慢、神田川」(第3学年) の学習活動

「神田川」の教材化の可能性

○自然災害に対する対策

- ・ハザードマップ
 - ・神田川・環状七号線地下調節池
 - ・新宿区役所(区長室危機管理課)
消防署、警察署
 - ・消防団
- など

2 実践事例

「地域の自慢、神田川」(第3学年)

「神田川」の教材化の可能性

○自然災害に対する対策を調べるための活動

見学、調査したり資料を活用したりして調べ

○その他の活動として

例：話し合い活動など

(「神田川は自慢できる川か?」)

2 実践事例

「地域の自慢、神田川」(第3学年)

模擬授業「ハザードマップの活用」
(6・7/10)

・ねらい

ハザードマップの特色を調べ、その役割を明らかにする。

2 実践事例

「地域の自慢、神田川」(第3学年)

模擬授業「ハザードマップの活用」
(6・7/10)

- ・ ハザードマップとは
災害危険箇所分布図ともいい、ある災害に対して危険なところを地図上に示したもの

(鹿児島大学理学部ホームページより)

2 実践事例

「地域の自慢、神田川」(第3学年)

模擬授業「ハザードマップの活用」 (6・7/10)

- ・洪水ハザードマップとは

大雨により河川が氾濫した場合に備えて、住民が迅速に避難できるようにした地図。一部の区が公表。

(内容)

- ・洪水時に危険な場所(浸水の予想される区域)
- ・危険の程度(想定される浸水深)
- ・避難場所、避難経路等の災害対応のための情報など

(東京都建設局ホームページより)

2 実践事例

「地域の自慢、神田川」(第3学年)

模擬授業「ハザードマップの活用」 (6・7/10)

模擬授業の流れ

- (1)前時の復習
- (2)東海豪雨の様子 of 把握と、同規模の豪雨が新宿区にやってきた場合の神田川の状況の予想
- (3)(2)を調べる具体的な方策(ハザードマップの活用)の明確化と具体的な活用法の把握
- (4)ハザードマップの多様な活用方法の明確化
- (5)まとめーハザードマップの役割